佐賀縣統計圖表

産業編 二

A2
450

佐賀縣統計圖表

産業編

NO.2

商.工.鑛業及金融

佐賀縣知事官房統計課

緒言

社會經濟の發達に伴ひ統計が各般施設計畫の基礎資料なると共に國民の日常生活とも愈々密接する樣になつたのである。

然るに統計は其の性質上數字的に煩瑣なるを以て未だ一般民衆に利用さるゝ所とならず其の眞の意義と妙味とを理解せらるゝに至らさるは遺憾とする所である。

本縣に於ては從來より各種印刷物を刊行し或は適當の方法を講じ之が普及に努めたのであるが本編は主として本縣經濟の狀況を簡明なる統計圖に表示し其の變遷推移の狀況と其の現況とを一目瞭然たらしめ以て統計の民衆化の一助に資せむものとするものである。

昭和八年五月

佐賀縣知事官房統計課

423-459

凡例

一、佐賀縣統計圖表は産業、社會、財政、學事及人口の五編よりなる本編は産業編の一部にして商、工、鑛業及金融關係に係るものなり尚水産、山林及縣外輸出入の狀況に付ては順次刊行の豫定なり

一、本編は統計系列の圖示なるも之を組織的に配列し相互連絡を失はさる樣編纂せり

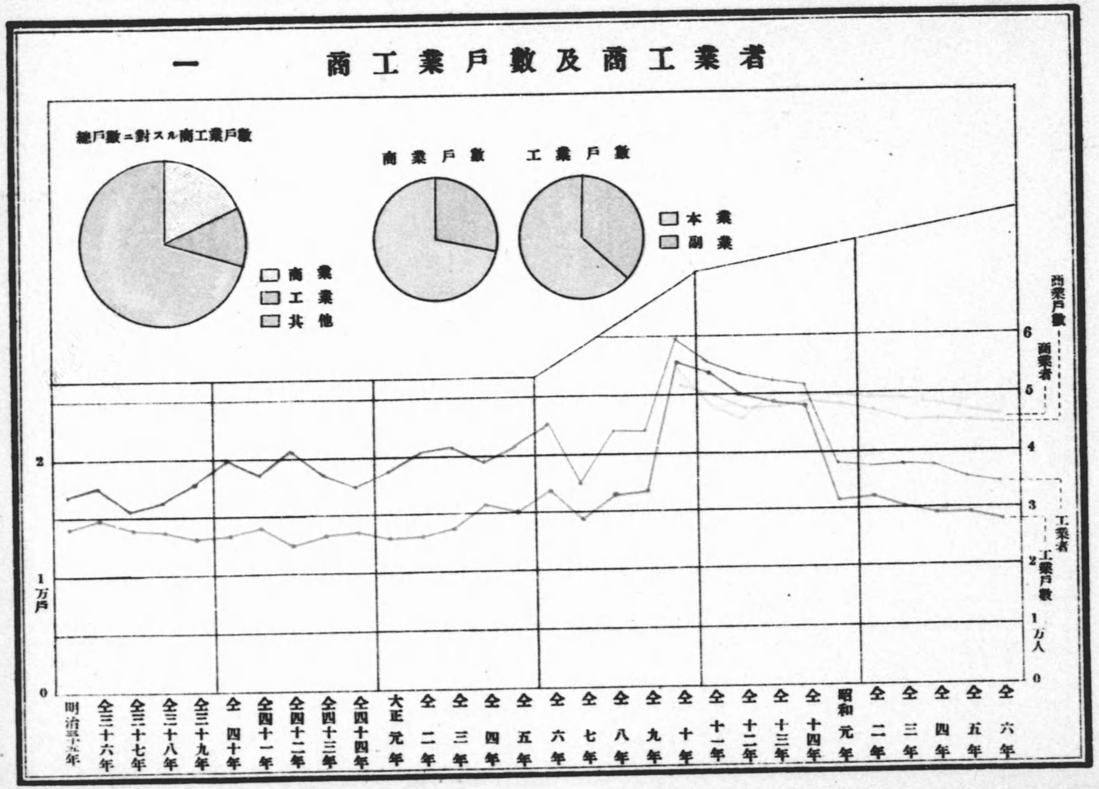
一、表中の說明は通俗的に且つ興味を失はさる樣記述せるものにして憶斷に亘ると思はるゝものも要は興趣の中に要領を得むとするものなり

一、本編は昭和六年の事實に依りたるも必要のものは累年に遡りて調査せり

目次

一、商工業戶數及商工業者
二、工　場
三、工產物累年及郡市別比較
四、主要工產物價額
五、鑛　山
六、會　社
七、銀　行
八、銀行預金貸金
九、貯蓄銀行
一〇、郵便貯金
一一、質　屋
一二、產業組合及農業倉庫
一三、市　場

一　商工業者及商工業戸數



一、商工業戸數及商工業者

商業戸數、商業者及工業戸數、工業者は順次發展の狀況を示し世界大戰後は其の傾向特に著しいが好況時代の反動で其後漸次衰退しつゝある、今之を五ケ年毎に見るに

	商業戸數	商業者	工業戸數	工業者
昭和六年	三一三、三五二	四五、七三〇	一四、〇五五	一四、三五六
全元年	二四、〇六四	四九、四八六	一五、九六六	三七、九五三
大正十年	二五、九七〇	三五、九六〇	二七、九六〇	三九、五三〇
全五年	一	三五、九六九	一五、三〇一	四一、三三三
明治四十四年	一	一	一三、六四四	三五、一三〇
全三十九年	一	一	一三、四一六	三五、七四四
全三十五年	一	一	一四、二四一	三三、六二七

更に總戸數に對する商、工業戸數の割合を見るに

	總數	商業戸數	工業戸數
昭和六年	一〇〇	一八・〇	一一・四

尙商、工業戸數の本業、副業の割合を見るに

	商業戸數	工業戸數
本業	七一・六	六三・三
副業	二八・四	三六・八

二、工　場

昭和五年末現在に於ける五人以上使用工場數は四〇六で其の中食料品工業が最も多く窯業か之に亞ぎ雜工業、化學工業、機械器具工業等は僅少である。

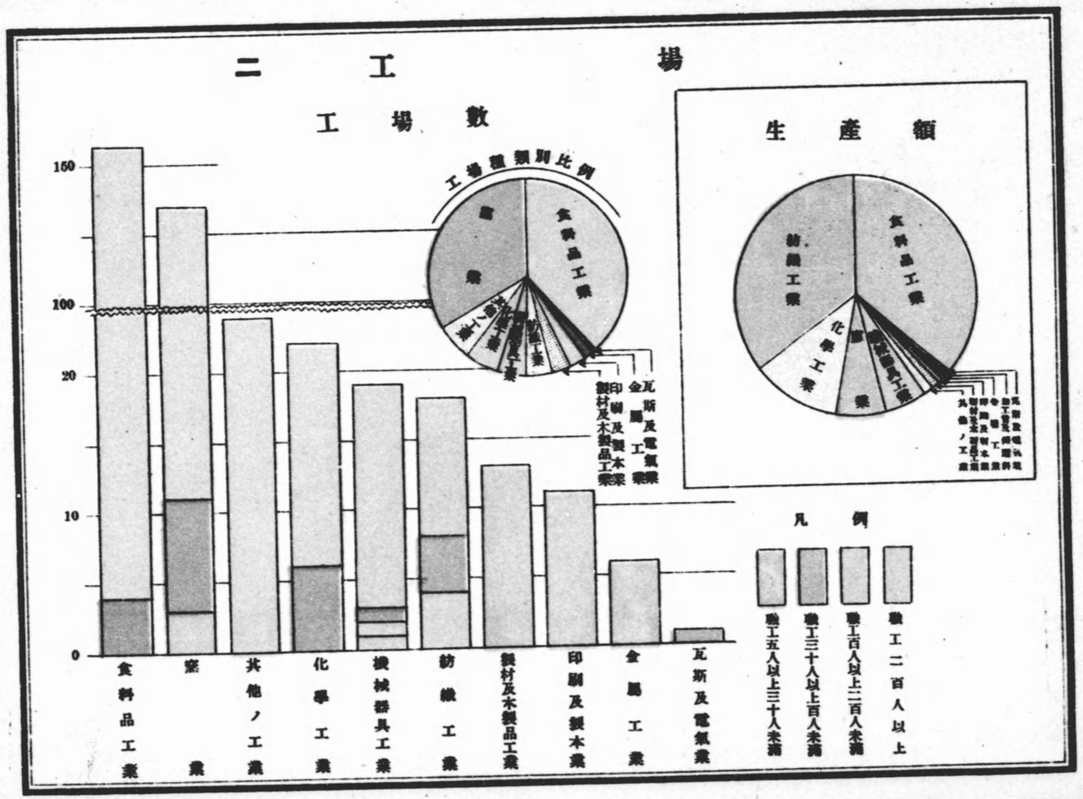
工場の種類別比例を見ると、

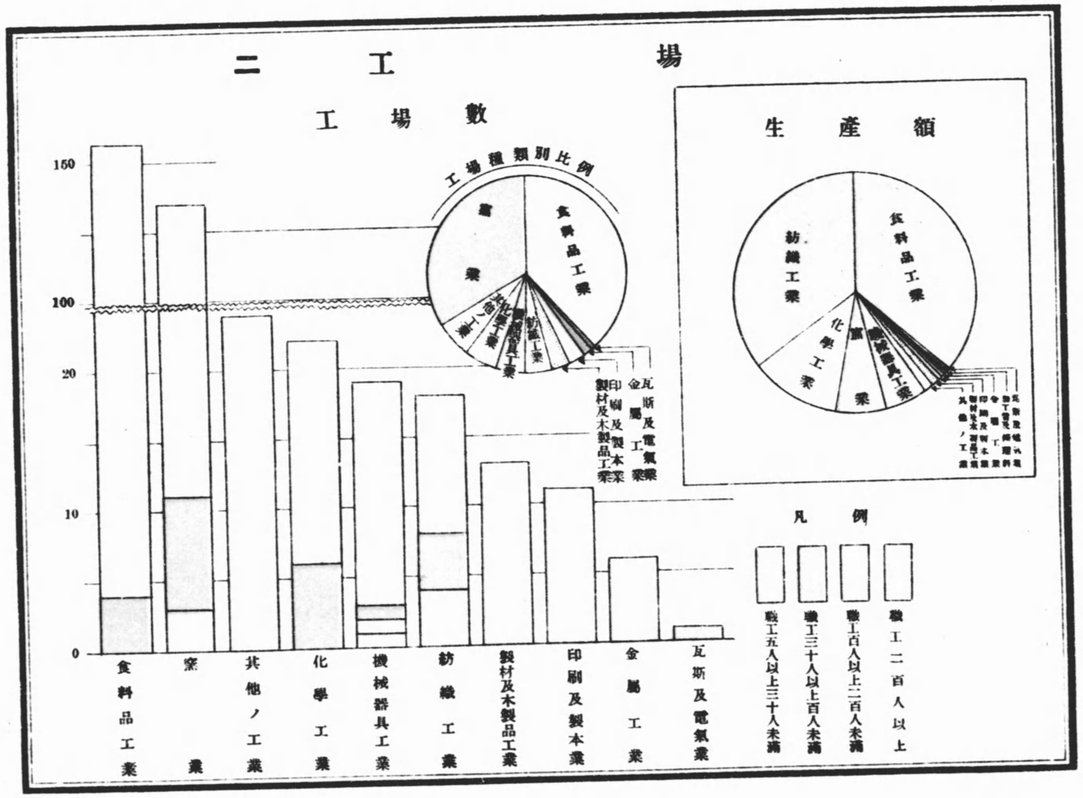
種類別	工場數	比例
總數	四〇六	一〇〇・〇
食料品工業	一七〇	四一・八
窯業	一三五	三三・三
其他の工業	二三	五・九
化學工業	一三	三・二
機械器具工業	一九	四・七
紡織工業	一六	三・九
製材及木製品工業	一三	三・二
印刷及製本業	一一	二・七
金屬工業	六	一・五
瓦斯及電氣業	一	・二

更に工場の種類別に生産額を見ると、

種類別	生産額	比例
總數	三四、七三〇、九八四	一〇〇・〇
食料品工業	九、〇三八、一三五	二六・〇
紡織工業	八、七六一、三四〇	二五・二
化學工業	三、九五三、〇二五	一一・四
窯業	一、六四四、一八九	四・七
機械器具工業	一、四九八、三五六	四・三
其他ノ工業	三、四八、五七八	一・三
製材及木製品工業	三、四八、五七八	一・〇
印刷及製本業	二、四八、六二	一・五
金屬工業	一、〇七、八九五	・四
加工賃及修理料	八三、二四一	・二
瓦斯及電氣業	三三、七五五	・二

右の如く生産額に於ては食料品工業と紡織工業か斷然地位を抜き他は遙に低い。





二、工　場

昭和五年末現在に於ける五人以上使用工場數は四〇六、其の中食料品工業が最も多く窯業が之に亞ぎ雜工業、化學工業、機械器具工業等は僅少である。

工場の種類別比例を見ると、

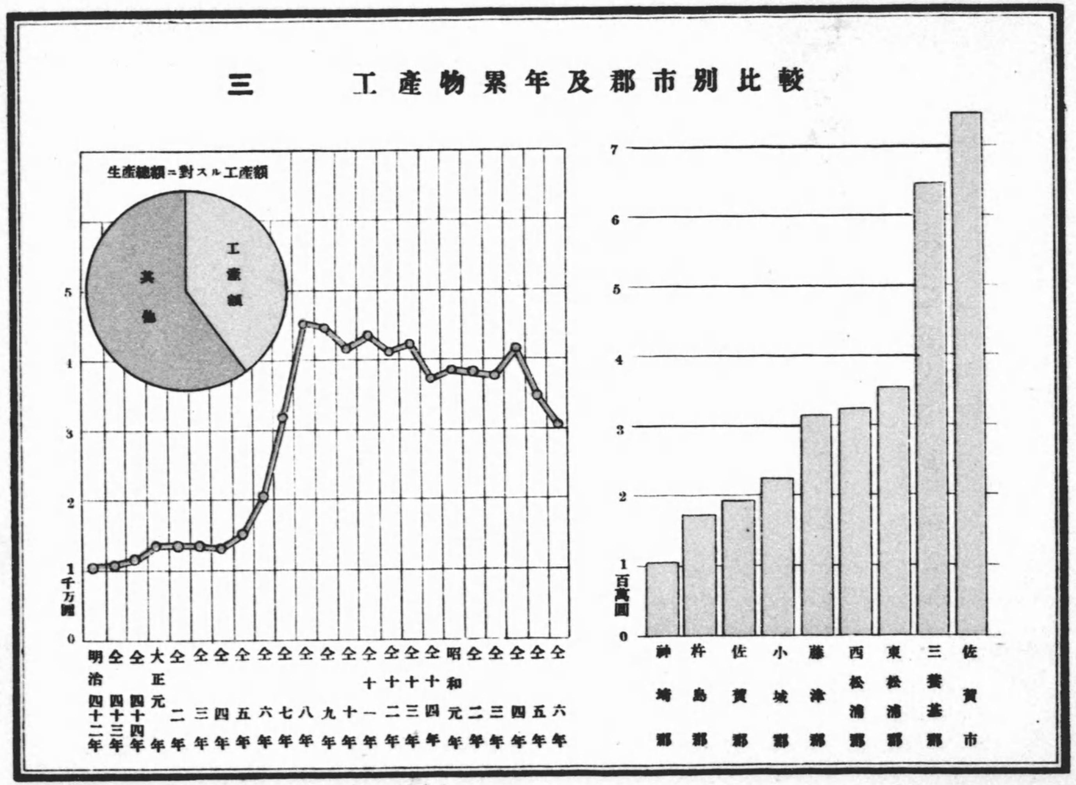
種類別	工場數	比例
總數	四、六〇六	一〇〇・〇
食料品工業	一、一七五	二五・四
窯業	一、一五五	二五・〇
其他の工業	四三九	九・五
化學工業	四三一	九・四
機械器具工業	三九七	八・六
紡織工業	三四三	七・四
製材及木製品工業	二七一	五・九
印刷及製本業	二二七	四・九
金屬工業	一一五	二・五
瓦斯及電氣業	一一	〇・二

更に工場の種類別に生産額を見ると

種類別	生産額	比例
總數	四、五三、二五九、〇〇〇	一〇〇・〇
食料品工業	九、二六、八一三、〇〇〇	二〇・四
紡織工業	八、五六、六一五、〇〇〇	一八・八
化學工業	三、九五、三二五、〇〇〇	八・七
窯業	一、六四、一六五、〇〇〇	三・六
機械器具工業	一、四八、六五八、〇〇〇	三・二
其他ノ工業	三、六八、七七〇、〇〇〇	八・一
製材及木製品工業	二、四八、〇〇〇、〇〇〇	五・五
印刷及製本業	二、〇三、八五〇、〇〇〇	四・五
金屬工業	一、七一、八五〇、〇〇〇	三・八
加工賃及修理料	八、一四、〇〇〇、〇〇〇	一七・九
瓦斯及電氣業	三、一五、三五〇、〇〇〇	〇・七

右の如く生産額に於ては食料品工業と紡織工業が斷然地位を抜き他は遙に低い。

三　工産物累年及郡市別比較



三、工産物累年及郡市別比較

工産物總額既往の趨勢は財界の狀勢によつて一進一退を辿りつゝあつたが世界大戰後は目覺しい發展を示したるも其の後は每年漸減の傾向を辿つてゐる。之か五ヶ年每を見ると

	工産物總額
昭和六年	三、六五六、〇八五圓
仝元年	三六、四四五、八三七
大正十年	四二、三四五、九五二
仝五年	二五、一〇九、三五八
明治四十四年	一二、六三九、三九七

尙生産總額に對する工産總額の割合を見ると三九・九%に當る。

更に郡市別に見ると佐賀市の七、四三六、七六三圓が最も多く三養基郡か之に亞ぎ最も少ないのが神埼郡の一、〇三九、八一三圓である。

郡市別	工産物總額
佐賀市	七、四三六、七六三圓
三養基郡	六、四四五、七二四
東松浦郡	三、五三二、八四三
西松浦郡	三、三五七、九四二
藤津郡	三、一一五、六五八
小城郡	三、〇三〇、一四四
佐賀郡	一、九二六、三九五
杵島郡	一、九二一、九三三
神埼郡	一、〇三九、八一三

三、工產物累年及郡市別比較

工產物總額既往の趨勢は財界の狀勢によつて一進一退を辿りつゝあつたが世界大戰後は目覺しい發展を示したるも其の後は每年漸減の傾向を辿つてゐる。之が五ヶ年每を見ると

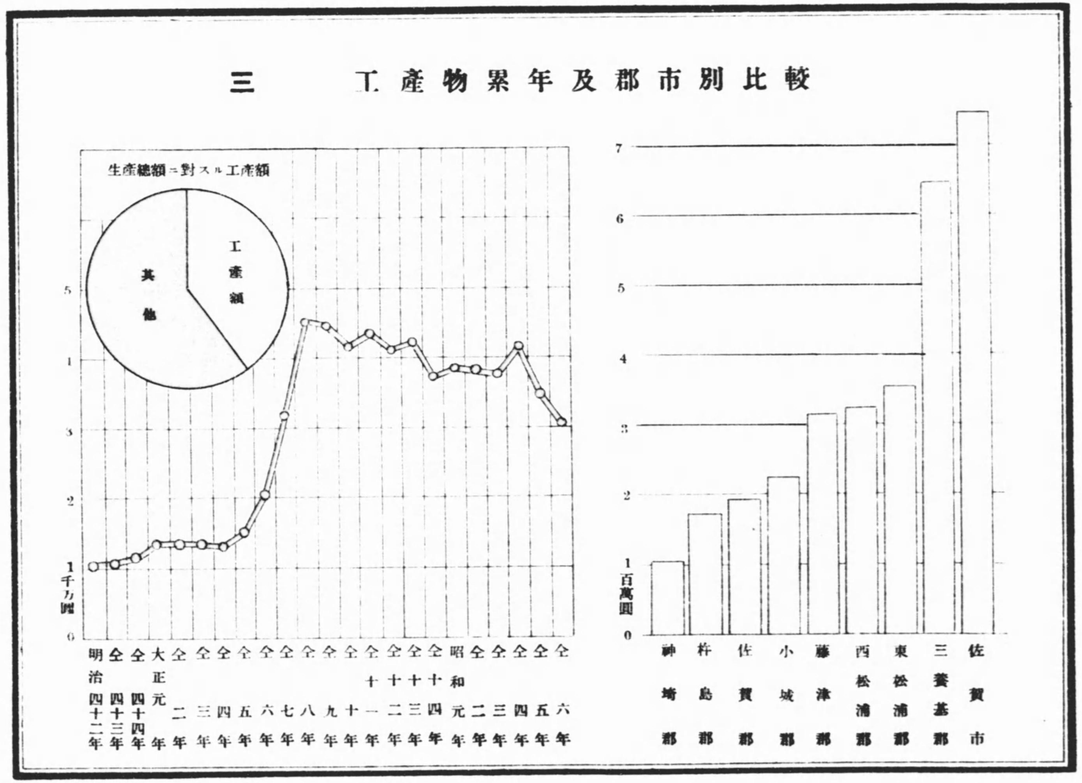
	工產物總額
昭和六年	三、六三、八一六、
仝元年	三、四五、三八三、
大正十年	四、三四、九八三、
仝五年	二、五二、五五八、
明治四十四年	二、八三、九二七、

尙生產總額に對する工產總額の割合を見ると三九・九%に當る。

更に郡市別に見ると佐賀市の七、四三六、七六三圓が最も多く三養基郡が之に亞ぎ最も少ないのが神埼郡の一、〇三九、八一三圓である。

郡市別	工產物總額
佐賀市	七、四三六、七六三
三養基郡	六、四九、七三四
東松浦郡	三、五二、八四三
西松浦郡	三、三五、六四九
藤津郡	三、二三、六八
小城郡	三、三〇、二四四
佐賀郡	一、九六、三五九
杵島郡	一、五二、九三七
神埼郡	一、〇三九、八一三

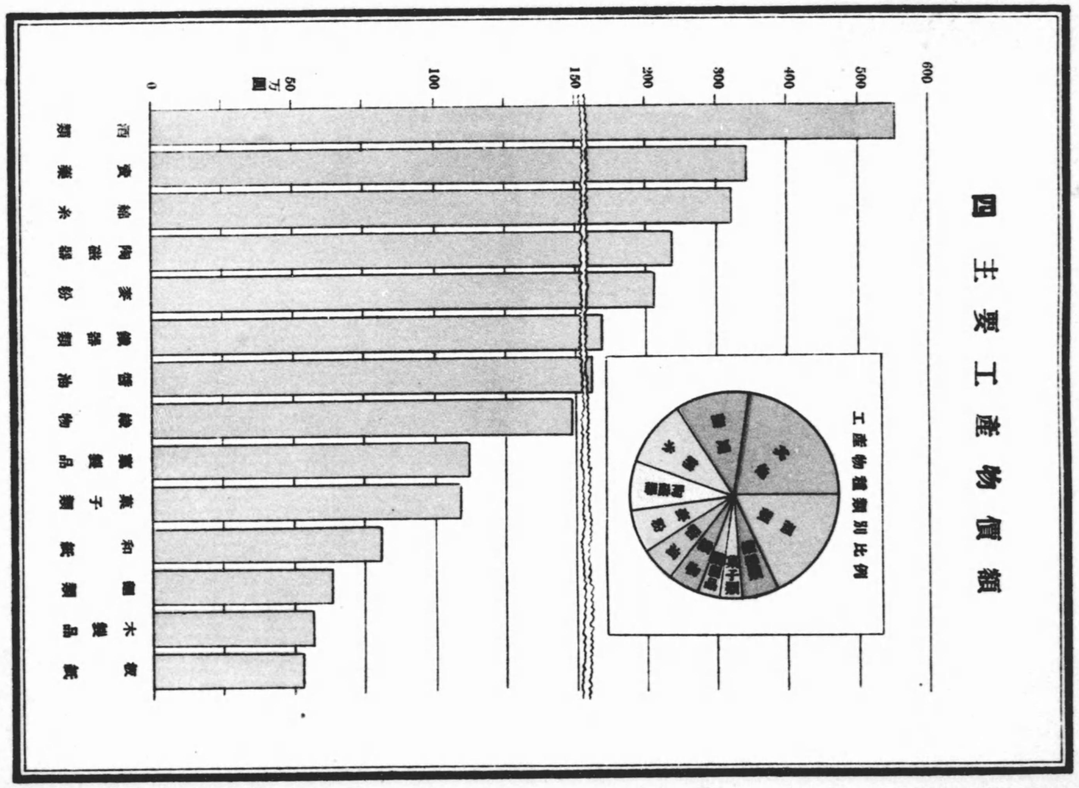
三　工產物累年及郡市別比較



四、主要工產物價額

工產物中酒類の產額は五、五三三、九三五圓で總額の一八%で首位を占め、煙草の三、四四〇、三三五圓（一一・二%）之に亞ぎ綿糸、陶磁器、麥粉、鐵器類、醬油等の順で五〇萬圓以上のものを示すと

種類別	產額	工產總額に對する割合
酒類	五、五三三、九三五圓	一八・〇%
煙草	三、四四〇、三三五	一一・二
綿糸	三、一八六、九二四	一〇・五
陶磁器	二、二〇三、〇三五	七・八
麥粉	一、八三五、三五九	六・九
鐵器類	一、六三五、〇七五	五・五
醬油	一、四八一、一〇〇	四・八
織物	一、一一〇、四五七	三・七
製藥品	一、〇八四、三七一	三・五
菓子類	八〇三、二四四	二・九
和紙	六四〇、三四四	二・一
麵類	五五八、一〇五	一・八
木製品	五〇六、二〇五	一・七

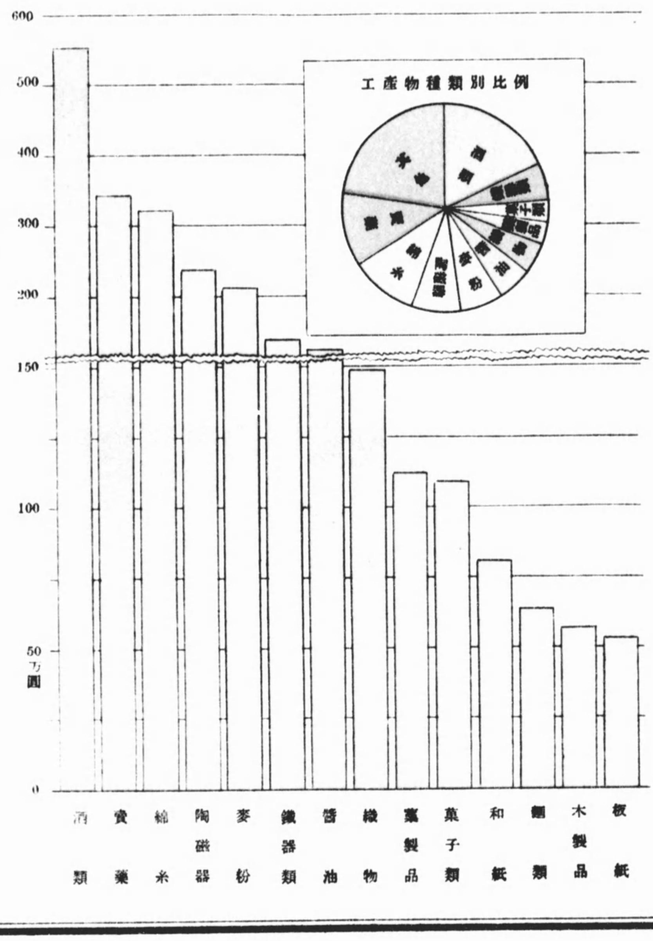


四、主要工産物價額

工産物中消費額の産額は五、五三三、九三五、三三五圓で總額の一八%を占めゝ、纖維の三、四四〇、〇〇〇圓、陶磁器、麥粉、絲糸、食料品等の順序で五〇〇萬圓以上のものを示すと

種別	産額	工産額に對する割合
酒類	五四、〇〇〇、〇〇〇圓	一八・〇%
醬油	三四、〇〇〇、〇〇〇圓	一一・三%
絲糸	三二、〇〇〇、〇〇〇圓	一〇・六%
陶磁器	二三、五〇〇、〇〇〇圓	七・八%
麥粉	二一、〇〇〇、〇〇〇圓	七・〇%
纖維品	一六、〇〇〇、〇〇〇圓	五・三%
醬油	一五、〇〇〇、〇〇〇圓	五・〇%
織物	一四、〇〇〇、〇〇〇圓	四・六%
寫眞製品	一一、〇〇〇、〇〇〇圓	三・六%
菓子類	一〇、八〇〇、〇〇〇圓	三・六%
和紙	八、〇〇〇、〇〇〇圓	二・六%
麵類	六、五〇〇、〇〇〇圓	二・一%
木製品	五、五〇〇、〇〇〇圓	一・八%
板紙	五、〇〇〇、〇〇〇圓	一・六%

四　主要工産物價額

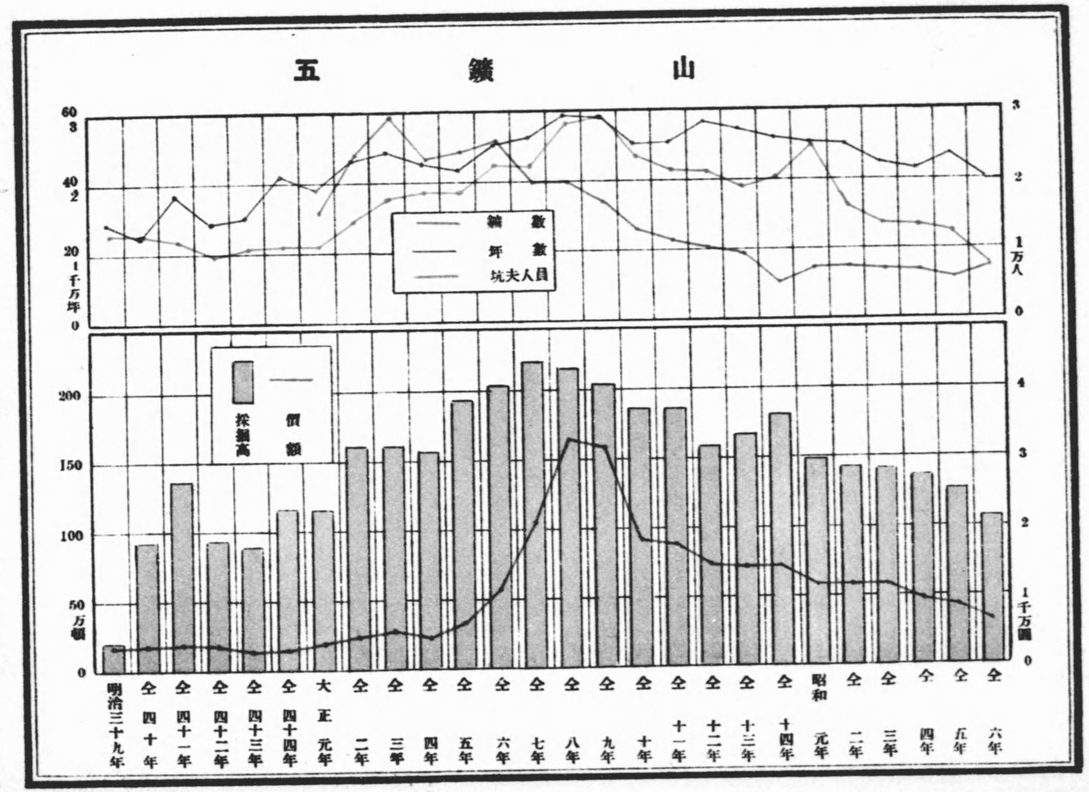


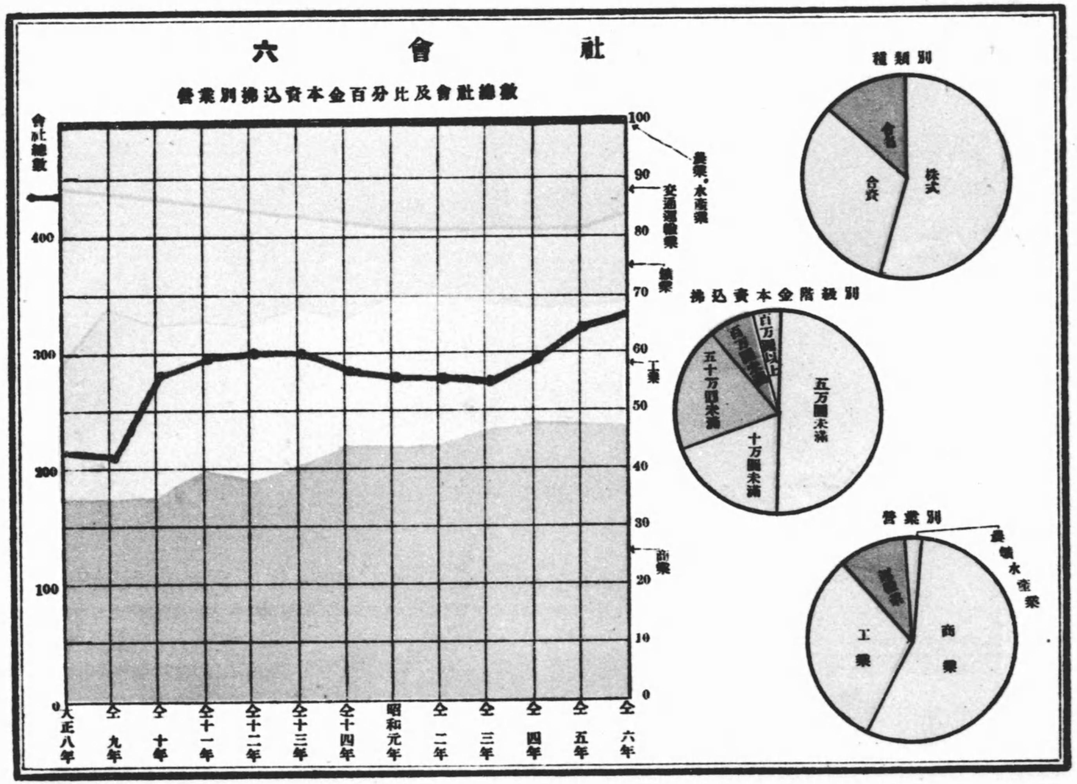
五、鑛　山

本縣の石炭は米に亞く重要物産で戰時好況時代に於ては企業の激增を見たるが其の後財界の不況で小鑛山は漸次休止し大資本經營の重要炭山十數坑であるが從つて其の出炭も亦減少をなしつゝある。

之か五ヶ年毎を見るに

	鑛數	坪數	坑夫人員	採掘高	價額
昭和六年	一五	三〇、三四八、七五一	八、一九五	一、〇五七、〇一三瓲	六、〇〇三、八四四圓
仝　元年	一五	三一、四四一、三五六	一三、〇三八	一、四二七、六五五	一二、四九八、四〇三
大正十年	一六	三五、六六八、六七七	一三、九四三	一、八九九、〇八八	一八、〇一七、三七七
仝　五年	四九	三一、九三五、一四三	一八、八五二	一、四九六、八〇七	六、六〇八、八五五
明治四十四年	一	三一、〇八八、三七〇	二一、〇三五	一、二二一、九一五	三、八三七、三五三
仝三十九年	一	一四、八六〇、一九五	一二、六八八	三〇六、〇四四	三、四九八、八四三





六、會　社

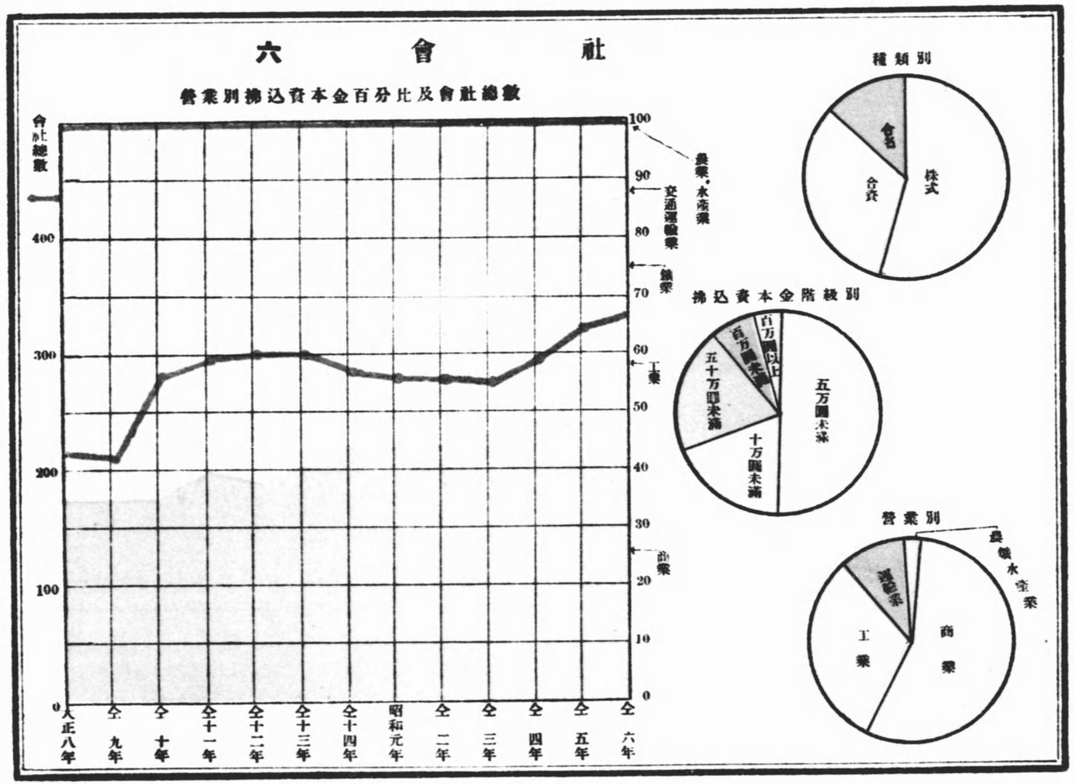
昭和六年末現在の會社數は三三一で之を組織別に見ると最も多いのが株式の一八〇（五四・四%）で、合資一〇七（三二・三%）合名四四（一三・三%）の順序で各會社共逐年增加を辿りつゝある。

更に資本金階級別に見ると五萬圓未滿一六八（五〇・八%）十萬圓未滿及五十萬圓未滿は何れも六三（一九・〇%）百萬圓未滿二一（六・三%）百萬圓以上一六（四・九%）の順序である。

尙營業別に見ると商業の一八五（五五・九%）最も多く之に次で工業の一〇三（三一・一%）運輸業三四（一〇・三%）農、鑛、水產業九（二・七%）の順序である。

營業別拂込資本金（百分比）

	會社數	農業水產業	交通運輸業	鑛業	工業	商業
昭和六年	三三一	一	六	一五	三一	四七
全五年	三二六	一	六	一四	三〇	四九
全四年	三二五	一	六	一四	三〇	四九
全三年	三二五	一	六	一三	三〇	五〇
全二年	三一九	一	六	一三	二九	五〇
全元年	三一九	一	六	一三	二九	五〇
大正十四年	三一八	一	六	一三	二九	五〇
全十三年	三〇〇	一	六	一三	二九	五〇
全十二年	二九五	一	六	一三	二九	五〇
全十一年	二九三	一	六	一三	二九	五〇
全十年	二七〇	一	六	一三	二九	五〇
全九年	二三〇	一	六	一三	二九	五〇
全八年	二二四	一	六	一二	二九	五一



六、會社

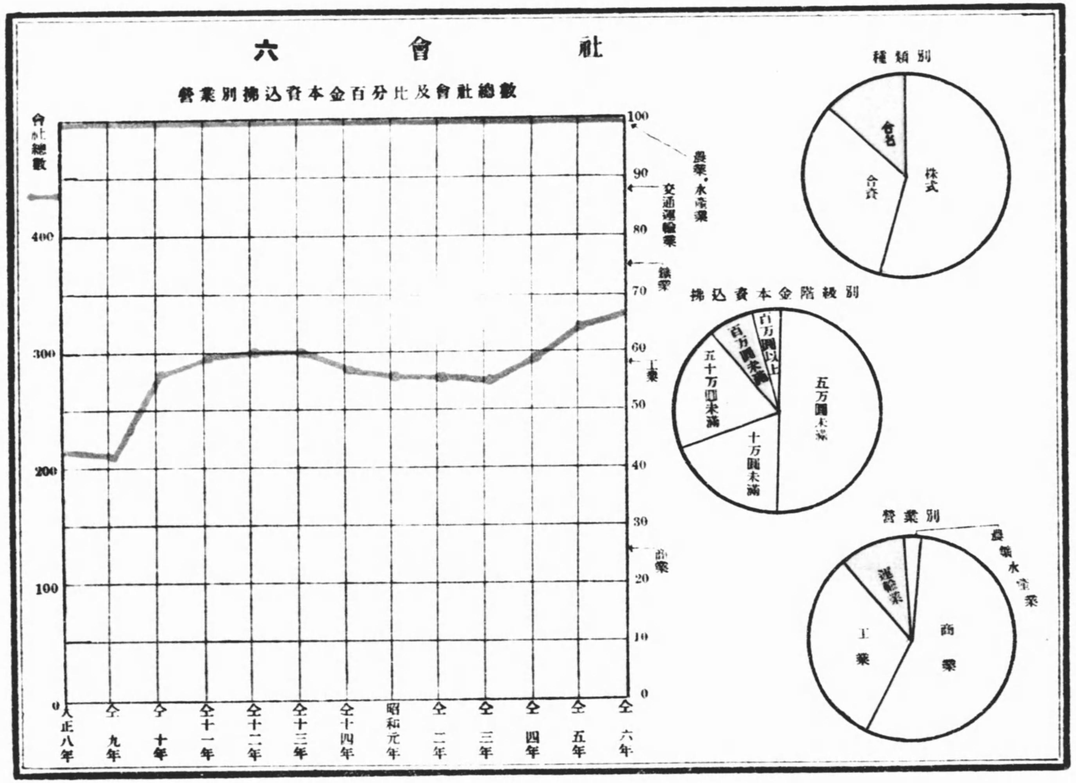
昭和六年末現在の會社數は三三一で之を組織別に見ると最も多いのが株式の一八〇（五四・四%）で、合資一〇七（三二・三%）合名四四（一三・三%）の順序で各會社共逐年增加を辿りつゝある。

更に資本金階級別に見ると五萬圓未滿一六八（五〇・八%）十萬圓未滿及五十萬圓未滿は何れも六三（一九・〇%）百萬圓未滿二一（六・三%）百萬圓以上一六（四・九%）の順序である。

尙營業別に見ると商業の一八五（五五・九%）最も多く之に次で工業の一〇三（三一・一%）運輸業三四（一〇・三%）農、鑛、水產業九（二・七%）の順序である。

營業別拂込資本金（百分比）

	會社數	農業水產業	交通運輸業	鑛業	工業	商業
昭和六年	三三一	一	一〇	三	三四	五五
仝五年	三三一	一	一〇	三	三四	五五
仝四年	三四一	一	一〇	三	三四	五五
仝三年	三五一	一	一〇	三	三四	五五
仝二年	三五一	一	一〇	三	三四	五五
仝元年	三五一	一	一〇	三	三四	五五
大正十四年	三四一	一	一〇	三	三四	五四
仝十三年	三〇一	一	一〇	三	三四	五四
仝十二年	二九一	一	一〇	三	三四	五四
仝十一年	二九一	一	一〇	三	三四	五四
仝十年	二九一	一	一〇	三	三四	五四
仝九年	二九一	一	一〇	三	三四	五四
仝八年	二九一	一	一〇	三	三四	五四



六、會　社

昭和六年末現在の會社數は三、三一一で之を組織別に見ると最も多いのが株式の一八、（五四・四%）で、合資一、〇七一（三二・三%）合名四四四（一三・三%）の順序で各會社共逐年增加を辿りつゝある。

更に資本金階級別に見ると五萬圓未滿一、六八（五〇・八%）一十萬圓未滿及五十萬圓未滿は何れも六三（一九・〇%）百萬圓未滿二一（六・三%）百萬圓以上一六（四・九%）の順序である。

尚營業別に見ると商業の一、八五（五五・九%）最も多く之に次で工業の一〇三（三一・一%）運輸業三四（一〇・三%）農、鑛、水產業九（二・七%）の順序である。

營業別拂込資本金を百分比で見ると商業及交通運輸業が逐年增加し、鑛業及工業が漸次減少の傾向である。

營業別拂込資本金（百分比）

會社數	農、鑛、水產業	交通運輸業	鑛業	工業	商業
昭和六年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝五年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝四年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝三年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝二年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
大正十四年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝十三年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝十二年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝十一年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝十年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝九年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四
仝八年 三、三一一	一	一〇	四	三一	五四

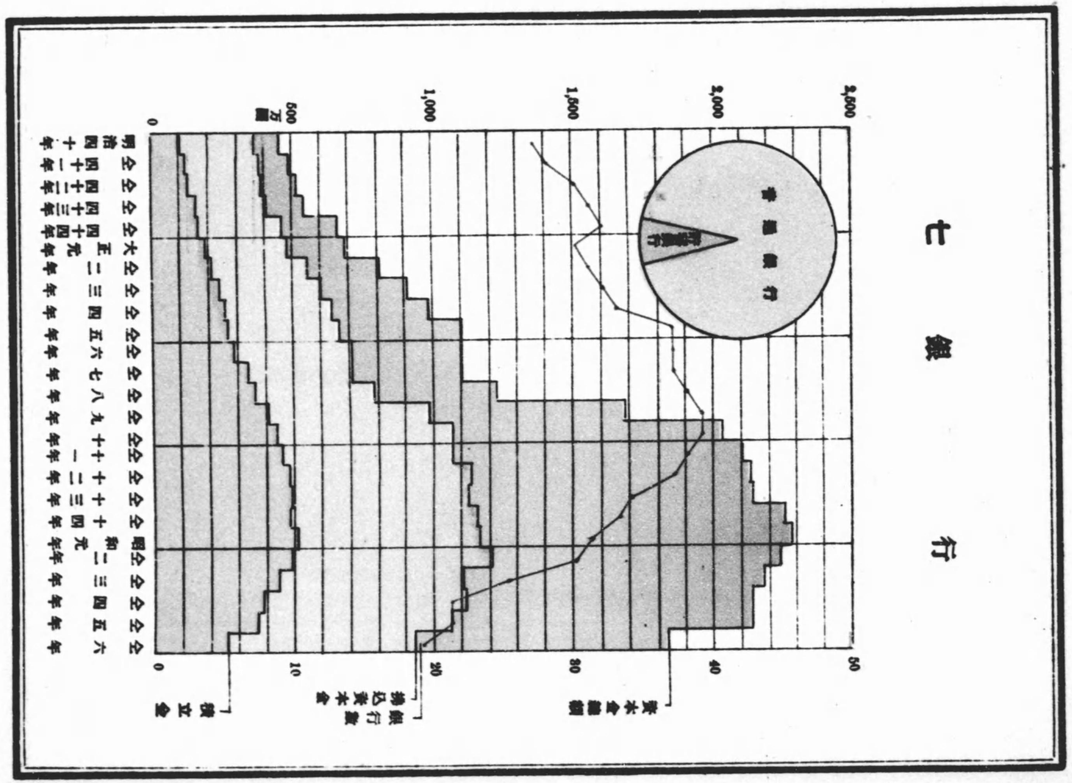
七、銀　行

昭和六年末現在に於て本縣下に本店を有する銀行數は普通銀行一八、貯蓄銀行一、計一九で此の資本金總額一八、四三〇、〇〇〇圓、拂込資本金九、三一五、八五九圓、積立金二、五一五、七一九圓で戰時好況時代迄は著しく增加を示し三九行に及んだが其の後財界の反動によつて小銀行は漸次併合せられ今日では半減となる。

今之を五ケ年毎に見ると

	銀行數	資本金總額	拂込資本金	積立金
昭和六年	一九	一八、四三〇、〇〇〇	九、三一五、八五九	二、五一五、七一九
仝　元年	三一	三一、二三〇、〇〇〇	一二、六二一、二三四	三、〇三五、七二一
大正十年	五九	一一〇、三三〇、〇〇〇	一〇、三三〇、〇〇〇	四、三五五、三二五
仝　五年	三七	二一、〇〇〇、〇〇〇	六、六三一、八五〇	三、〇五一、八五〇
明治四十四年	三三	六、六六八、八〇〇	四、六六八、三三六	一、六四一、三四六
仝　四十年	三七	四、八〇〇、〇〇〇	三、六八八、〇〇二	一、〇〇八、一五三

尙普通銀行と、貯蓄銀行の割合を見ると普通銀行九四・七%、貯蓄銀行五・三%に相當する。



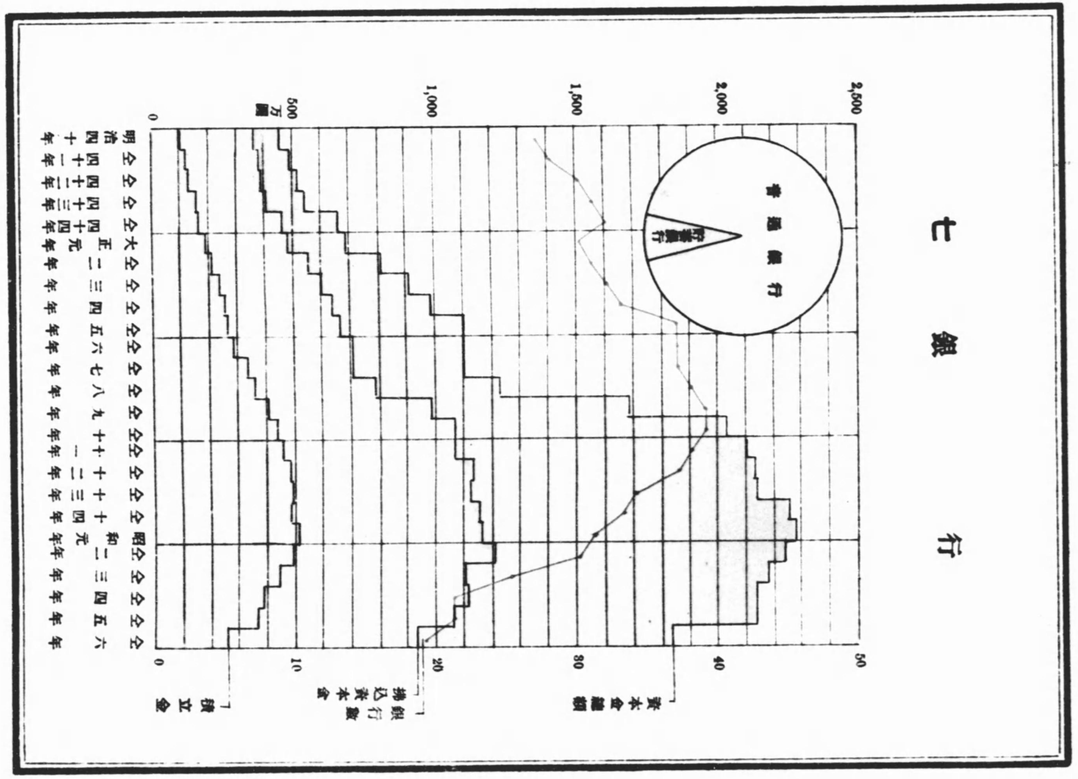
七、銀　行

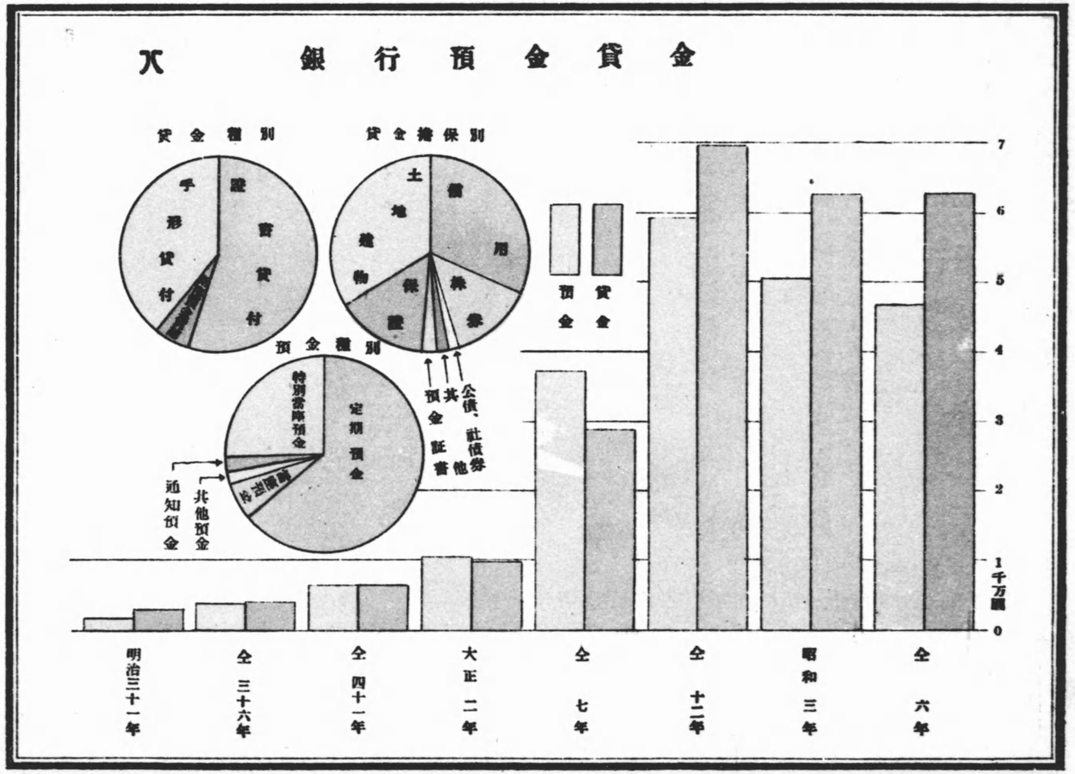
昭和六年末現在に於て本縣下に本店を有する銀行數は普通銀行一八、貯蓄銀行一、計一九で此の資本金總額一八、四三〇、〇〇〇圓、拂込資本金九、三一五、八五九圓、積立金二、五一五、七一九圓で戰時好況時代迄は著しく增加を示し三九行に及んだが其の後財界の反動によつて小銀行は漸次併合せられ今日では半減となる。

今之を五ヶ年毎に見ると

	銀行數	資本金總額	拂込資本金	積立金
昭和六年	一九	八、四三〇、〇〇〇圓	九、三一五、八五九圓	二、五一五、七一九圓
全　元年	三一	一三、七二〇、〇〇〇	一二、九七二、三四四	五、〇七五、九二一
大正十年	三九	三、三五〇、〇〇〇	一、七五〇、六二五	四、九九五、五二五
全　五年	三七	二、〇三〇、〇〇〇	六、六七二、八五〇	三、六五二、八五〇
明治四十四年	三三	六、六五六、八五〇	四、六八八、三六	二、六四二、四九
全四十年	三七	四、七〇〇、〇〇〇	三、六八八、八六二	一、〇〇八、一五三

尙普通銀行と、貯蓄銀行の割合を見ると普通銀行九四・七%、貯蓄銀行五・三%に相當する。





八、銀行預金、貸金

昭和六年末現在の預金總額は四六、八六三、四三八圓貸付金六二、九三二、二八二圓で差引一六、〇六八、八四四圓の貸越となる而して預金貸金の最も多いのは大正十四年で其の後預金貸金共漸次減少を辿りつゝある尚前年來貸金に於て稍增加を見たのは各種救濟資金の貸出が多いのに基因する。

今之を五ヶ年毎に表示すると

	預金年末現在高	貸金年末現在高
昭和六年	四六、八六三、四三八	六二、九三二、二八二
仝　三年	四五、八六八、九四四	六二、三五八、二五六
大正十二年	四六、九三二、〇一二	六六、七五〇、七五五
仝　七年	三五、〇一二、八五三	五八、八四六、三五〇
仝　二年	二三、四四八、八二六	九、七四四、四四三
明治四十一年	六、〇五五、六七八	六、〇五三、六五五
仝三十六年	三、九七〇、三五五	三、九五〇、四四七
仝三十一年	一、四一二、〇三五	

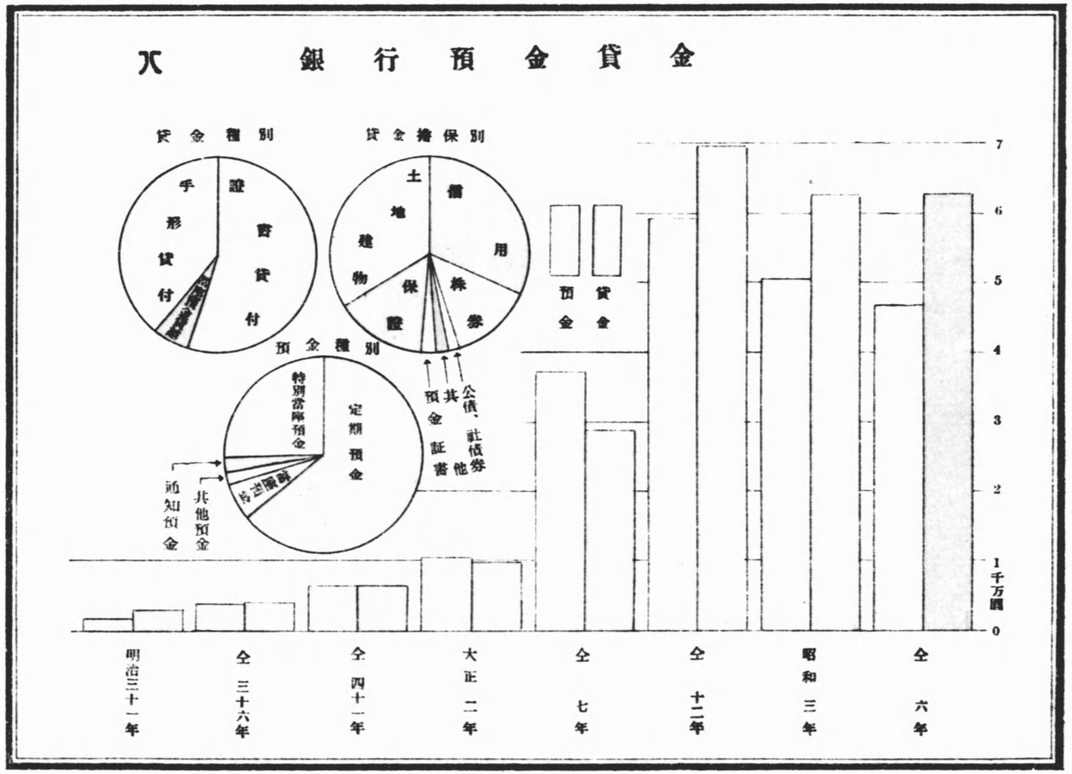
更に貸金の種類別比例を見ると最も多いのが證書貸付で三四、六二一、〇四二圓（五五・〇%）之に次で手形貸付の二四、六八二、九八八圓（三九・二%）當座預金貸越三、六二八、二五二圓（五・八%）の割合となる。

尚貸付金の擔保別を見るに

擔保別	貸付金額	割合
土地建物	二一、六五二、六五九	三四・八%
信用	一九、八六六、〇八八	三一・六
保證	九、三五八、一三三	一五・三
株券	八、五六六、二四三	一三・三
預金證書	一、三五七、〇〇六	二・四
公債、社債券	一、二四七、三五九	一・八
其他	一、一三三、〇三六	一・九

土地建物の擔保最も多く之に亞いで信用、保證、株券の順序で、預金証書、公債、社債券の擔保は僅少である。

又預金の種類別を見ると定期預金か大部分を占め三〇、〇一六、一三三圓（六四・一%）で特別當座預金は一一、八一二、五七五圓（二五・二%）當座預金は二、八七六、七四八圓（六・一%）通知預金は一・二五六、三三八圓（二・七%）其他が九〇一、六四四圓（一・九%）である。



八、銀行預金、貸金

昭和六年末現在の預金總額は四六、八六三、四三八圓貸付金六二、九三二、二八二圓で差引一六、〇六八、八四四圓の貸越となる而して預金貸金の最も多いのは大正十四年で其の後預金貸金共漸次減少を辿りつゝある尚前年來貸金に於て稍增加を見たのは各種救濟資金の貸出が多いのに基因する。

今之を五ヶ年毎に表示すると

	預金年末現在高	貸金年末現在高
昭和六年	四六、八六三、四三八	六二、九三二、二八二
全 三年	四五、九三二、三五五	六二、七七一、七五五
大正十三年	四五、九五一、三三三	六七、〇四二、九八八
全 七年	三二、三四八、八三四	五九、四四四、四三三
全 二年	二六、五六六、〇七七	五二、五二八、八七七
明治四十一年	二三、四二二、五七七	三九、二二八、〇四七
全三十六年	一四、二二二、五五五	二四、〇四七、五五五
全三十一年	一〇、三五〇、四四七	一八、〇四七、四四七

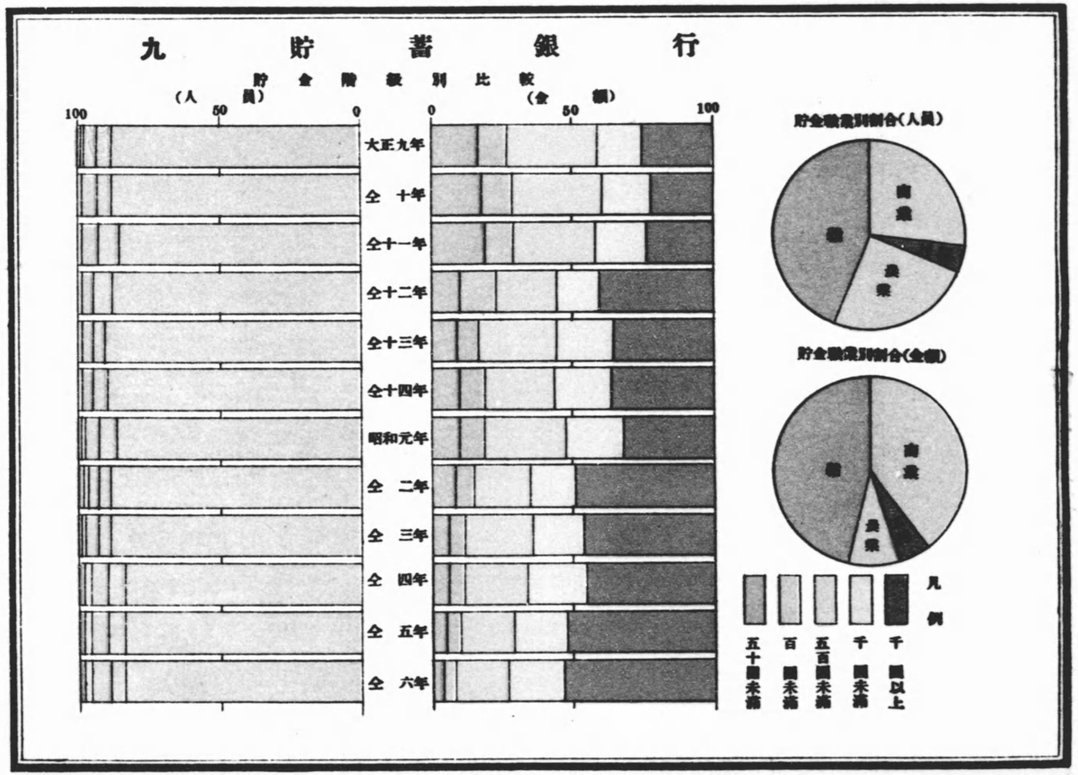
更に貸金の種類別比例を見ると最も多いのが證書貸付で三四、六二一、〇四二圓（五五・〇%）之に次で手形貸付の一四、九八二、七三九・二%）當座預金貸越三、六二八、二五二圓（五・八%）の割合となる

尚貸付金の擔保別を見るに

擔保別	貸付金額	割合
土地建物	三一、八三二、六五五	五〇・八%
信用	八、六六二、三五五	一三・八
保證	九、九五八、三三三	一五・八
株券	八、六六二、四四三	一三・八
預金證書	一、五七七、五五五	二・五
公債、社債券	一、四七七、五五五	二・三
其他	一、三三三、三三三	二・一

土地建物の擔保最も多く之に亞いで信用、保證、株券の順序で、預金証書、公債、社債券の擔保は僅少である。

又預金の種類別を見ると定期預金が大部分を占め三〇、一六、一三三圓（六四・一%）で特別當座預金は一一、八一二、五七五圓（二五・二%）當座預金は二、八七六、七四八圓（六・一%）通知預金は一・二五六、三三八圓（二・七%）其他が九〇一、六四四圓（一・九%）である。



九、貯蓄銀行

階級別に貯金の人員、金額を百分比で見ると、人員に於ては五十圓未滿が大部分を占め、金額に於ては反對に千圓以上が半額を占めてゐる。然して小口預金は漸次減少の傾向で大口預金が逐年增加を示してゐる、之は小口預金か一部郵便貯金に吸收された事と又一面富の偏在とを見逃す事が出來ない。今之を表示すると

（百分比）

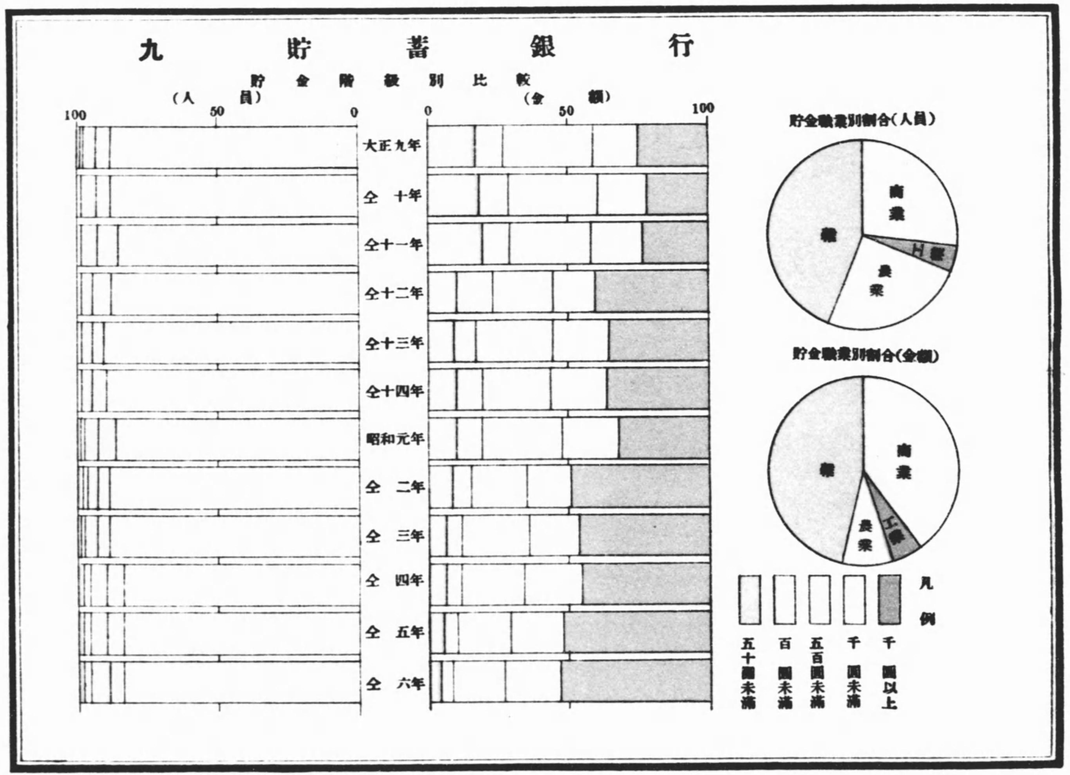
	五十圓未滿		百圓未滿		五百圓未滿		千圓未滿		千圓以上	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
昭和六年	四五	一	三六	二	一五	三	二	四	一	九二
全五年	四五	一	三六	二	一五	三	二	四	一	九二
全四年	四六	一	三六	二	一五	三	二	四	一	九二
全三年	四六	一	三六	二	一五	三	二	四	一	九二
全二年	四六	一	三六	二	一五	三	二	四	一	九二
全元年	四七	一	三六	二	一五	三	二	四	一	九二
大正十四年	四五	一	三五	二	一五	三	二	四	一	九三
全十三年	四九	一	三八	二	一四	三	二	四	一	九三
全十二年	四八	一	三七	二	一四	三	二	四	一	九三
全十一年	四八	一	三七	二	一四	三	二	四	一	九三
全十年	四八	一	三七	二	一四	三	二	四	一	九三
全九年	四八	一	三七	二	一四	三	二	四	一	九三

更に職業別に其の割合を見ると人員に對する金額の割合は商業が最も多く農業が一番少ない。

昭和六年

職業別	人員割合	金額割合
	%	圓
總數	一〇〇・〇	一〇〇・〇
農業	三五・六	四九・九八
商業	三六・八	三六・八三
工業	二四・三	四〇・六
雜	三七・六	四二・八五

九　貯蓄銀行



階級別に貯金の人員、金額を百分比で見ると、人員に於ては五十圓未滿が大部分を占め、金額に於ては反對に千圓以上が半額を占めてゐる。然して小口預金は漸次減少の傾向で大口預金が逐年增加を示してゐる、之は小口預金が一部郵便貯金に吸收された事と又一面富の偏在とを見通す事が出來ない。今之を表示すると

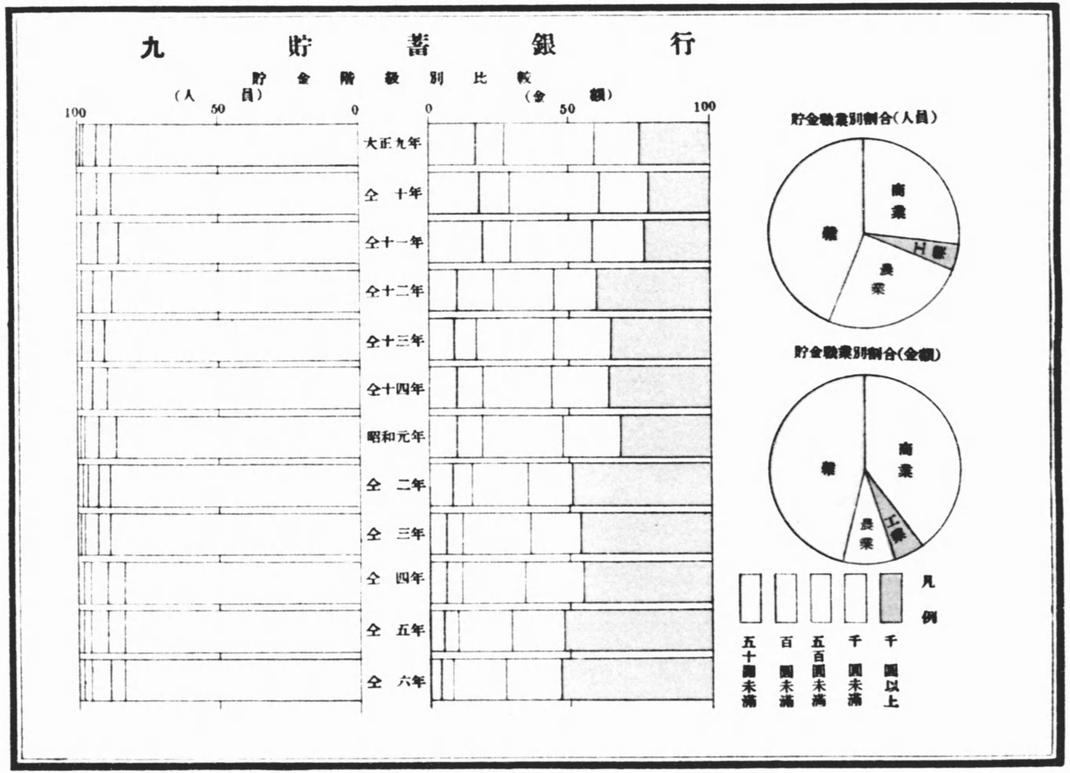
（百分比）

	五十圓未滿		百圓未滿		五百圓未滿		千圓未滿		千圓以上	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
昭和六年	四二・五	一・五	三五・五	五・三	一五・三	一〇・三	四・一	一〇・三	〇・四	七二・六
仝五年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝四年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝三年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝二年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝元年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
大正十四年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝十三年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝十二年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝十一年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝十年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六
仝九年	四二・六	一・六	三五・六	五・四	一五・二	一〇・二	四・〇	一〇・二	〇・四	七二・六

更に職業別に其の割合を見ると人員に對する金額の割合は商業が最も多く農業が一番少ない。

昭和六年

職業別	人員割合	金額割合
總數	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%
農業	四五・六	四・〇
商業	三八・八	四二・六
工業	四・一	一〇・三
雜業	一一・五	四三・一



九、貯蓄銀行

階級別に貯金の人員、金額を百分比で見ると、人員に於ては五十圓未滿が大部分を占め、金額に於ては反對に千圓以上が半額を占めてゐる。然して小口預金は漸次減少の傾向で大口預金が逐年增加を示してゐる。之は小口預金が一部郵便貯金に吸收された事と又一面富の偏在とを見逃す事が出來ない。今之を表示すると

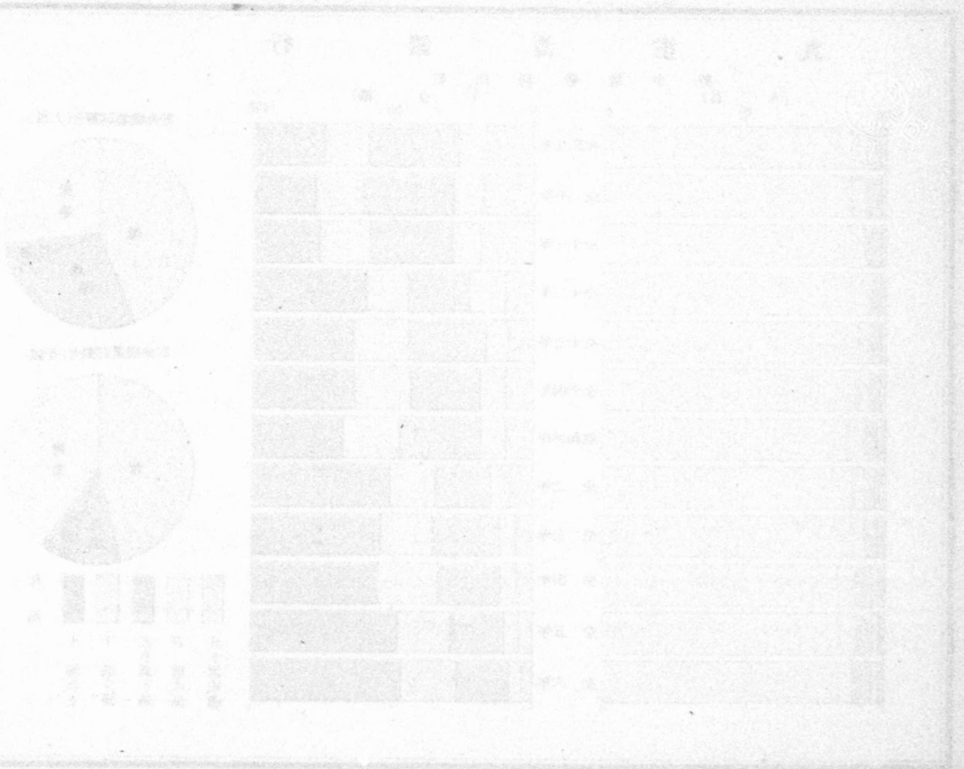
（百分比）

	五十圓未滿		百圓未滿		五百圓未滿		千圓未滿		千圓以上	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
昭和八年	四一・二	一・三	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝九年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十一年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十二年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十三年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十四年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
大正十四年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十三年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十二年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝十年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四
仝九年	四一・一	一・二	三一・一	三・一	二一・四	八・一	四・一	一五・一	一・四	七二・四

更に職業別に其の割合を見ると人員に對する金額の割合は商業が最も多く農業が一番少ない。

昭和八年

職業別	人員割合	金額割合
總數	一〇〇・〇	一〇〇・〇
農業	四・一	一五・一
商業	四・四	四二・八
工業	四・四	四二・八
雜	四・四	四二・八

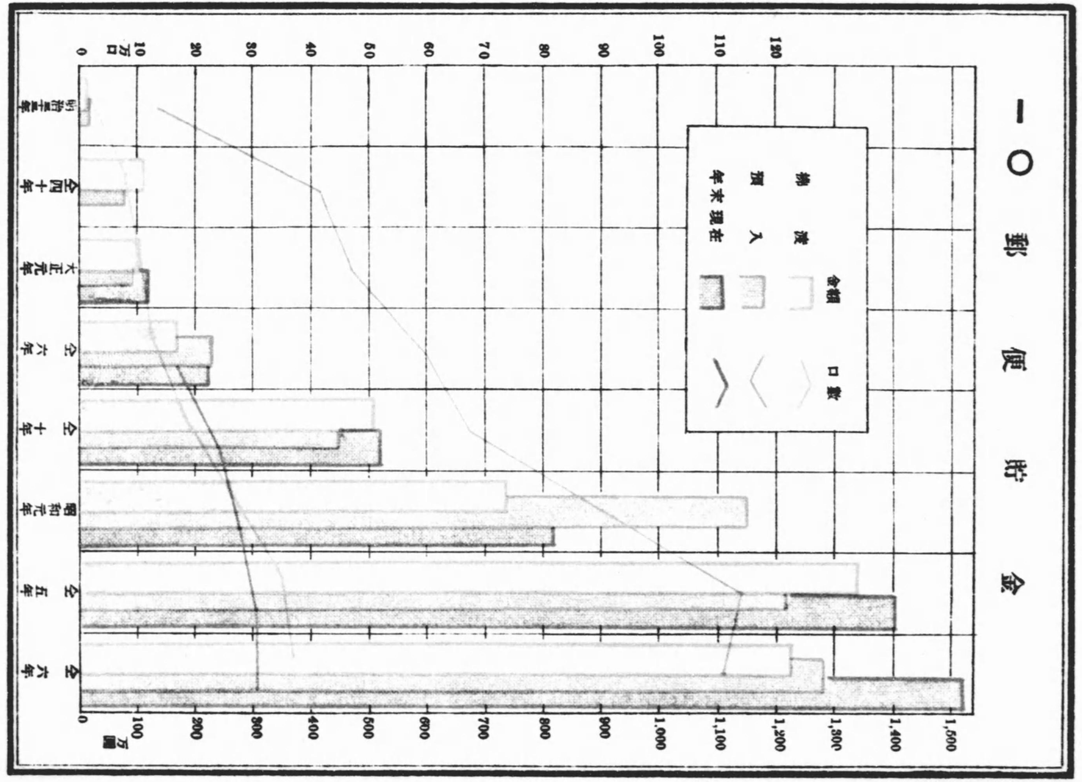


一〇、郵便貯金

昭和六年末現在に於ける郵便貯金現在高は一五、二八八、一一一圓で、大正元年の一、二三八、四九一圓に比すれば十二倍強、大正十年の五、二二六、四一九圓に比すれば約三倍の増加で財界の恐慌以來、安全なる郵便貯金は急速度の増加を示してゐる。

今之を五ヶ年毎に見れば

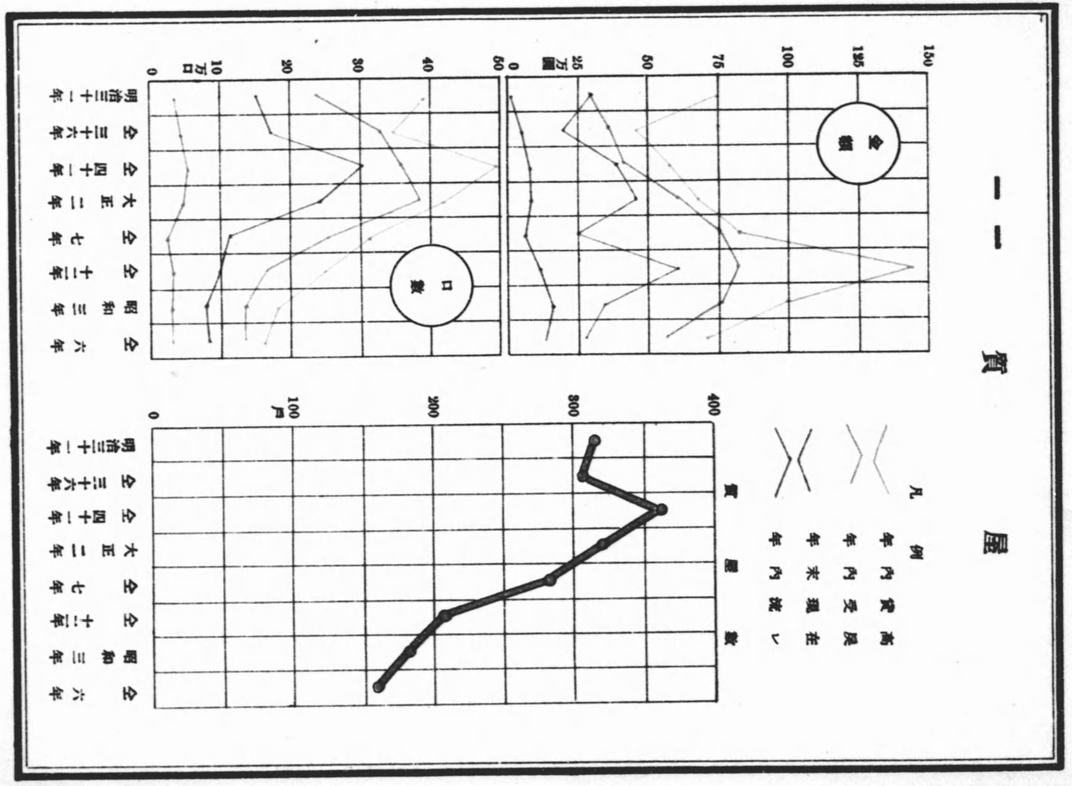
年度末現在	預入 口數	預入 金額	拂渡 口數	拂渡 金額
昭和六年	三六、一五三、一二二	一、二三、五五、二一	三、八四二、六八	三五八、六九八、八三
全　五年	三六、四二六、一四四	一、一四三、三三、二五	三、九三、九五	三五〇、〇九八、一三五
全　元年	三五、三〇五、〇九七	八、三五八、九三七	三、六〇、一七二	三五一、〇九六、七三〇
大正十年	三四、八三〇、五、三五、四一九		四、三五、八五八	一、四五、一五〇　五、〇八〇、四二七
全　六年	三三、八〇〇、九三		五九、七〇一	三、四九、三六
全　元年	〃　一、三六、四二一		四五、三七	九五、九九九　一〇一、〇九六
明治四十年	〃　〃		八、八五八	七三、五三七　一、〇九七、九五三
全三十五年	〃　〃		一、七、八二一	一三、七二一　一、〇九七、八八六



一一、質屋

明治三十一年以降に付て庶民の金融機關である質屋の狀況を見ると明治四十一年迄は遂年增加の傾向を示したが其の後漸次減少を見たのは財界不況の爲め流失のもの多く事業不振に依るものゝ如くである。之を五ヶ年毎に見ると

質屋數		年末現在	年內貸高	年內受戻	年內流れ
昭和六年	口數	八、三〇四件	一、三〇一、六二一件	三、八五六、八五〇件	三、八五六件
	金額	一五、一五五	一五九、九〇〇	三五九、三五〇	一四七、六〇五
全三年	口數	八、三一四	一、三一四、一五五	三、九五九、一四四	三、九五九
	金額	一五、一四四	一五九、九〇一	三五九、三四〇	一四七、三五五
大正十二年	口數	一〇、三五六	一、三四四、八七一	三、九五九、一四四	三、九五九
	金額	三五、三六八	三三〇、八六一	八三三、一六六	一、三三、三五五
全七年	口數	一二、九三四	一、三四四、八七一	三、九五九、一四四	三、九五九
	金額	三五、九三四	三三〇、八六一	八三三、一六六	一、三三、三五五
全二年	口數	一四、三三三	一、四二一、九八〇	四、一〇三、八五〇	四、一〇三
	金額	四四、三三三	三六七、八五〇	九七四、一四〇	六六、八二〇
明治四十一年	口數	一〇、九六五	一、四二一、九八〇	四、一〇三、八五〇	四、一〇三
	金額	三五、九六五	三六七、八五〇	九七四、一四〇	六六、八二〇
全三十六年	口數	一九、四四七	一、四二一、九八〇	四、一〇三、八五〇	四、一〇三
	金額	一二八、一二五	三六七、八五〇	九七四、一四〇	六六、八二〇
全三十一年	口數	一二、八一二	一、四二一、九八〇	四、一〇三、八五〇	四、一〇三
	金額	三五、八一二	三六七、八五〇	九七四、一四〇	六六、八二〇



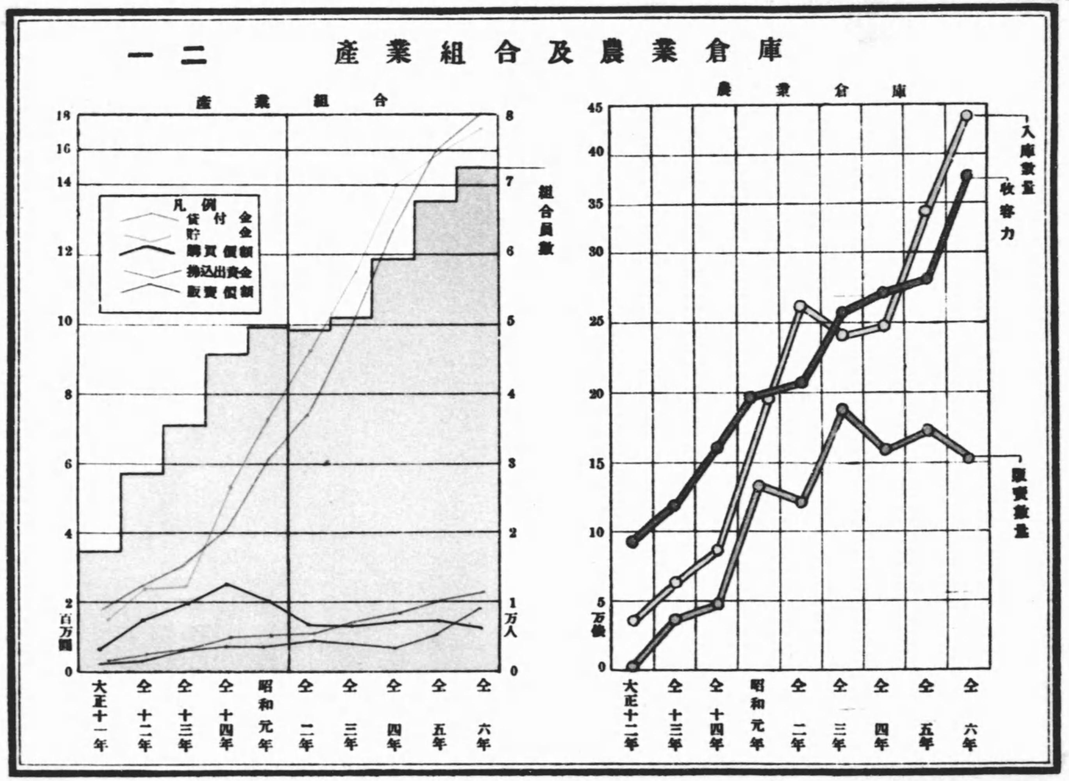
一二、産業組合及農業倉庫

農村の金融機關として最も重要な産業組合は昭和六年末に於て組合數一五四、組合員數七二、五一七人で拂込出資金は二、三二一、六六九圓、貯金額は實に一七、一九七、三六〇圓の多額で既往の趨勢から見ても其の進展は特に著しい。

	組合員數	拂込出資金	貯金	金貸付額	販賣價額	購買價額
	人	圓	圓	圓	圓	圓
昭和六年	七二、五一七	二、三二一、六六九	一七、一九七、三六〇	一四、九四二、八五〇	一、八二三、三八〇	一、九八三、三五三
全　五年	六七、八九五	二、〇三五、四四一	一五、七六七、三〇〇	一四、八九五、四〇〇	一、七三七、三六八	一、八四六、二三八
全　四年	六五、三四六	一、九四〇、七七一	一五、九五、三五八	一三、六八九、三五九	一、七五七、九三二	一、八四六、二三八
全　三年	五二、〇三五	一、四八六、八〇一	一二、三五、八六八	九、三五、四四七	八四四、三四七	一、四四五、二四四
全　二年	四九、四二三	一、二四四、三九三	九、三五、二四一	七、三五、二四〇	九四四、三八八	一、三四四、八四九
全　元年	四九、三二三	一、〇六一、八〇〇	七、三三三、三九九	六、〇三〇、四八五	七九六、八九七	一、〇五六、一〇三
大正十四年	四五、八九九	一、〇四四、三五〇	五、三一〇、三九九	四、一四四、三五〇	七九六、三〇五	一、〇三〇、一四五
全十三年	三五、六五九	六九三、〇九九	三、〇八六、〇九一	二、六五八、〇三一	六二、四四一	一、九五八、三〇三
全十二年	二八、八九九	三五五、二九〇	二、三八五、六三〇	一、四九五、三五八	三五六、八四四	一、四二八、三四四
全十一年	一七、三六六	三三五、三九九	一、三五八、〇四四	一、四五三、三五八	二四三、八四四	六三三、八四四

農業倉庫は昭和六年末現在に依れば倉庫數一四八棟、此の建坪八、四三八坪、收容力三七六、九二五俵、入庫數量四三七、八五〇俵で大正十二年に比し何れも著しい增加を見たるは一般農家の之を利用するもの激增した結果で喜ぶべき現象である。

	經營者數	棟數	坪數	收容力	入庫數量	販賣數量
	人	棟	坪	俵	俵	俵
昭和六年	八一	一四八	八、四三八	三七六、九二五	四三七、八五〇	一三一、三六六
全　五年	六七	一三四	四、六三九	三〇三、三五	三四二、四二六	一七二、三五三
全　四年	六五	一二九	三、九四〇	三〇二、七五五	三四八、三七〇	一三八、三七三
全　三年	五二	一一〇	三、三四四	三四二、七五五	三四二、三九八	一八七、三八九
全　二年	四九	九五	三、六三七	三〇二、三〇〇	三六二、六六八	二三二、三五五
全　元年	四九	八四	三、三三七	一九六、三五〇	一三五、三九八	一三三、三八九
大正十四年	四五	八六	二、九八三	一八二、三五〇	八九、七四三	四九、三六六
全十三年	三三	五三	一、三五三	一二九、三五〇	六四、三五六	三五、三五六
全十二年	三一	四〇	一、三三六	九四、六五〇	三六、三三八	三三、三五八



一三、市　場

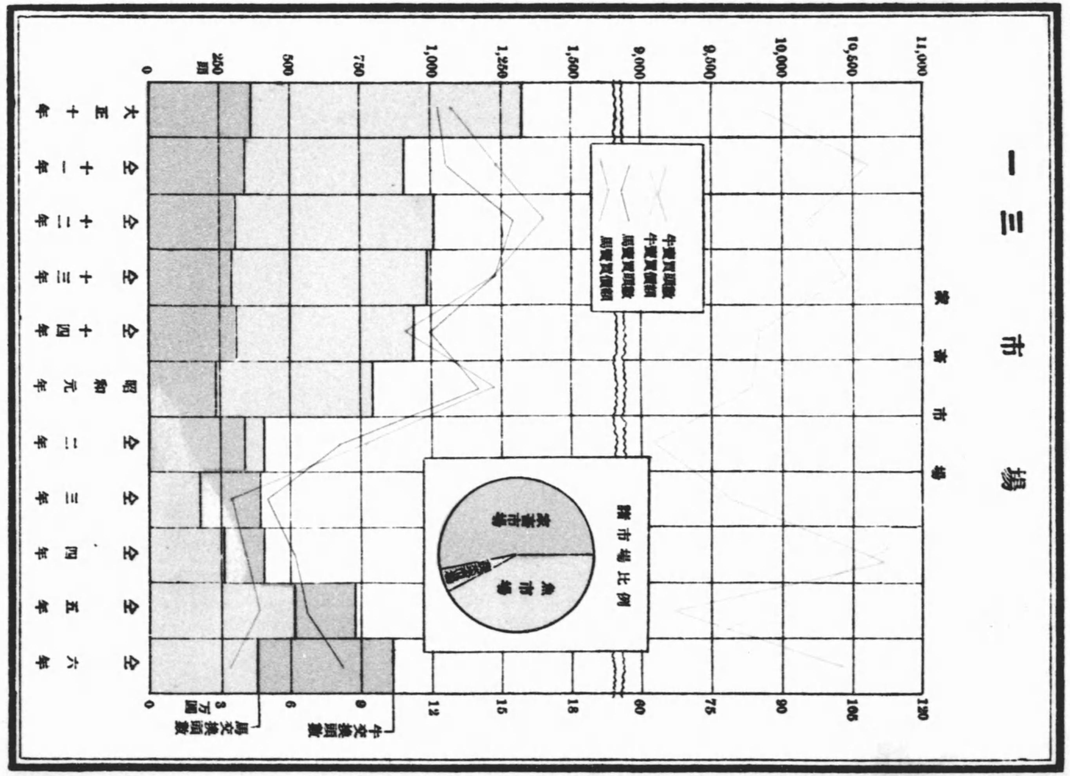
昭和六年中に於ける家畜市場の状況を見ると牛の賣買頭數は一〇、四七二頭、價額三七、六五二圓、馬は六八八頭、價額三七、六五二圓で、交換頭數に於ても牛が八六五頭、馬三八二頭で何れも牛か遙かに多い。今之を表示すると

	牛賣買		馬賣買		交換頭數
	頭數	金額	頭數	金額	牛 馬
昭和六年	一〇、四七二	三七、六五二	六八八	二、三五二	八六五 三八二
全 五年	九、二五三	三五、〇八〇	五六二	一、九四一	七二八 三二八
全 四年	一〇、五六六	三八、〇二五	五六八	一、九四二	四八一 二四八
全 三年	九、六五四	三五、〇三〇	四三一	一、五〇一	三九七 一七七
全 二年	九、一一七	三二、九九九	六六八	二、三七九	三五九 一九五
全 元年	九、八三一	一、〇四三、一三五	一、一六八	一、四八一、一三〇	三三一 一七七
大正十四年	九、八六六	一、〇四三、一四一	九四四	一、一一二、三三三	三〇九 一九七
全十三年	一〇、四八四	一、〇八〇、八九五	一、一三三	一、四九二、六三三	三九五 一九七
全十二年	一〇、三〇八	一、〇四四、三五六	一、一五〇	一、四〇、九八一	三一〇 一、〇〇八
全十一年	一〇、六四四	一、〇八九、六六四	一、〇四二	一、四九、三四四	二四一 一九七
全 十年	九、八六六	九、三三、二四三	一、〇三三	一、三九、二九一	三五六 一、三三五

更に諸市場の割合を見るに家畜市場の四四、最も多く魚市場の三五之に亞き、蔬菜市場は僅かに四である。

（百分比）

	家畜市場	魚市場	蔬菜市場
昭和六年	三五・〇九	四三・三九	四・八九



一三、市場

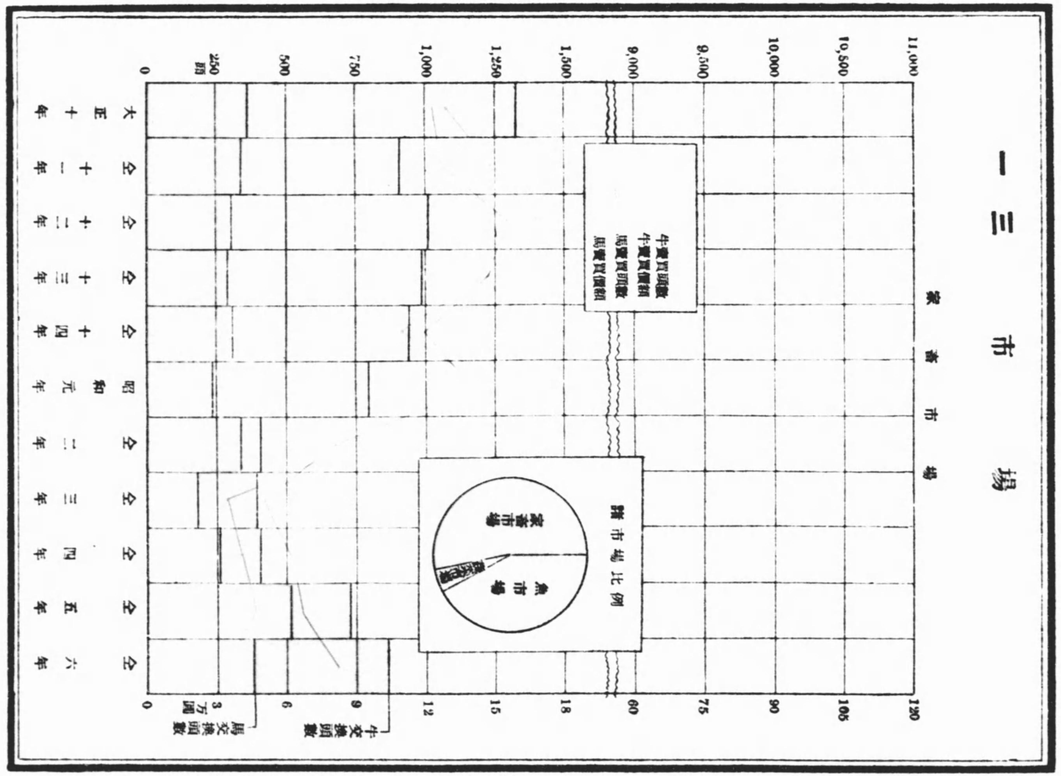
昭和六年中に於ける家畜市場の狀況を見るに牛の賣買頭數は一〇、四七二頭、價額六一〇、九二〇圓、馬は六、八八頭、價額三七、六五二圓で、交換頭數に於ても牛が八六五頭、馬三八二頭で何れも牛か遙かに多い。今之を表示すると

	牛賣買		馬賣買		交換頭數	
	頭數	金額	頭數	金額	牛	馬
昭和六年	一〇、四七二	六一〇、九二〇	六八八	三七、六五二	八六五	三八二
全　五年	九、一九一	六一〇、四四〇	五五二	四二、四九九	七一八	三六二
全　四年	一〇、五七六	六一〇、四四〇	五五二	四二、四九九	四八一	三六二
全　三年	九、六四四	九一〇、八九八	四二一	八一、一七七	三九七	二七
全　二年	九、二七七	一、四四一、二五五	六五八	九一、七九九	三五九	四五六
全　元年	九、八六二	一、四四一、二五五	七二六	一四八、三七〇	三二三	七七
大正十四年	九、八六六	一、〇三二、一四一	九四四	一二一、一一三	三五九	九七
全十三年	一〇、四四四	一、二八〇、八九九	一、三三三	一四九、六五二	三九五	九七
全十二年	一〇、三五六	一、四四八、九六六	一、三八〇	一七〇、八八一	三〇一	一〇六
全十一年	一〇、六四四	一、五九、六四四	一、四四七	一四九、六四四	一四一	九七
全　十年	九、八六六	九一三、一四一	一、〇三三	一、九九、九九	三六六	一、三三三

更に諸市場の割合を見るに家畜市場の四四、最も多く魚市場の三五之に亞き、蔬菜市場は僅かに四である。

（百分比）

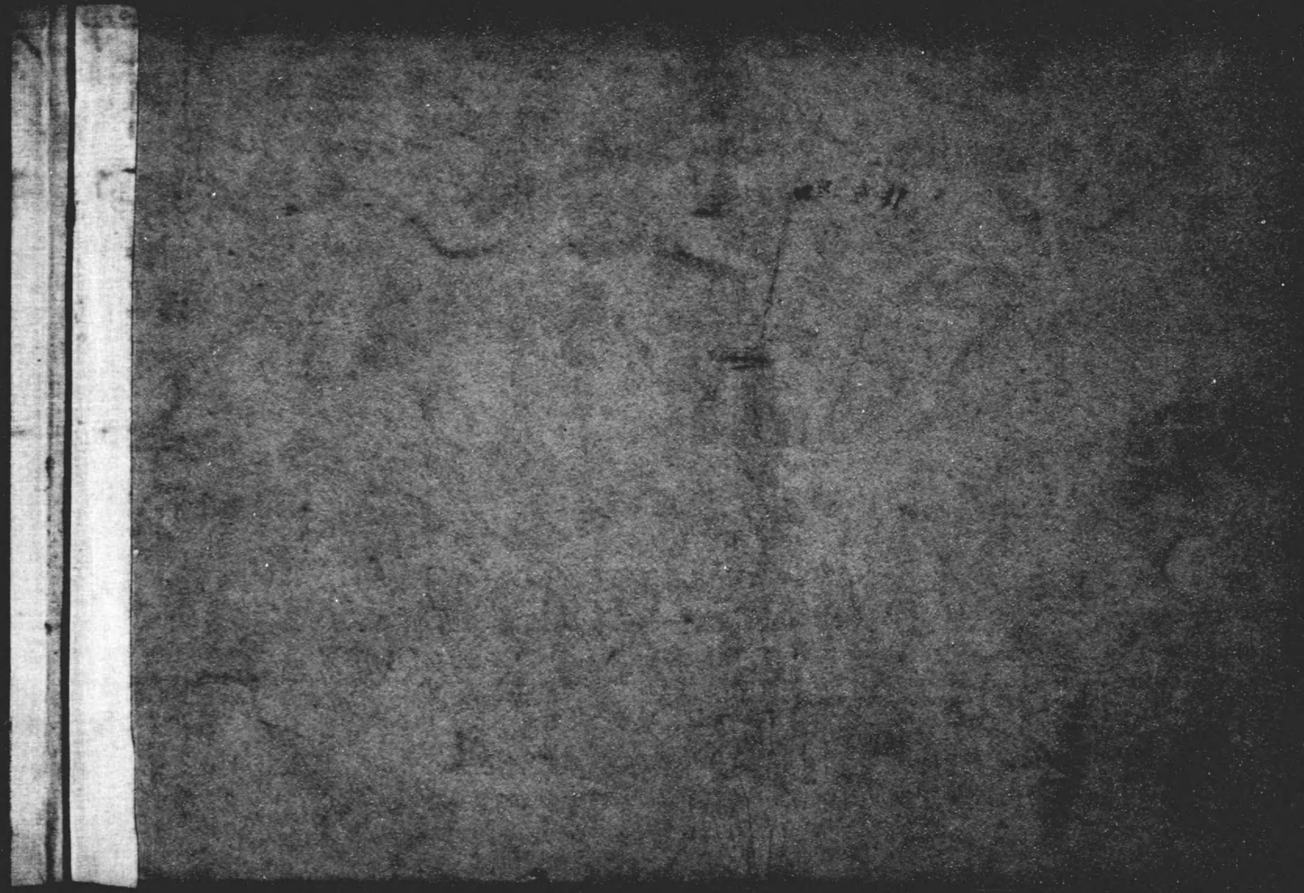
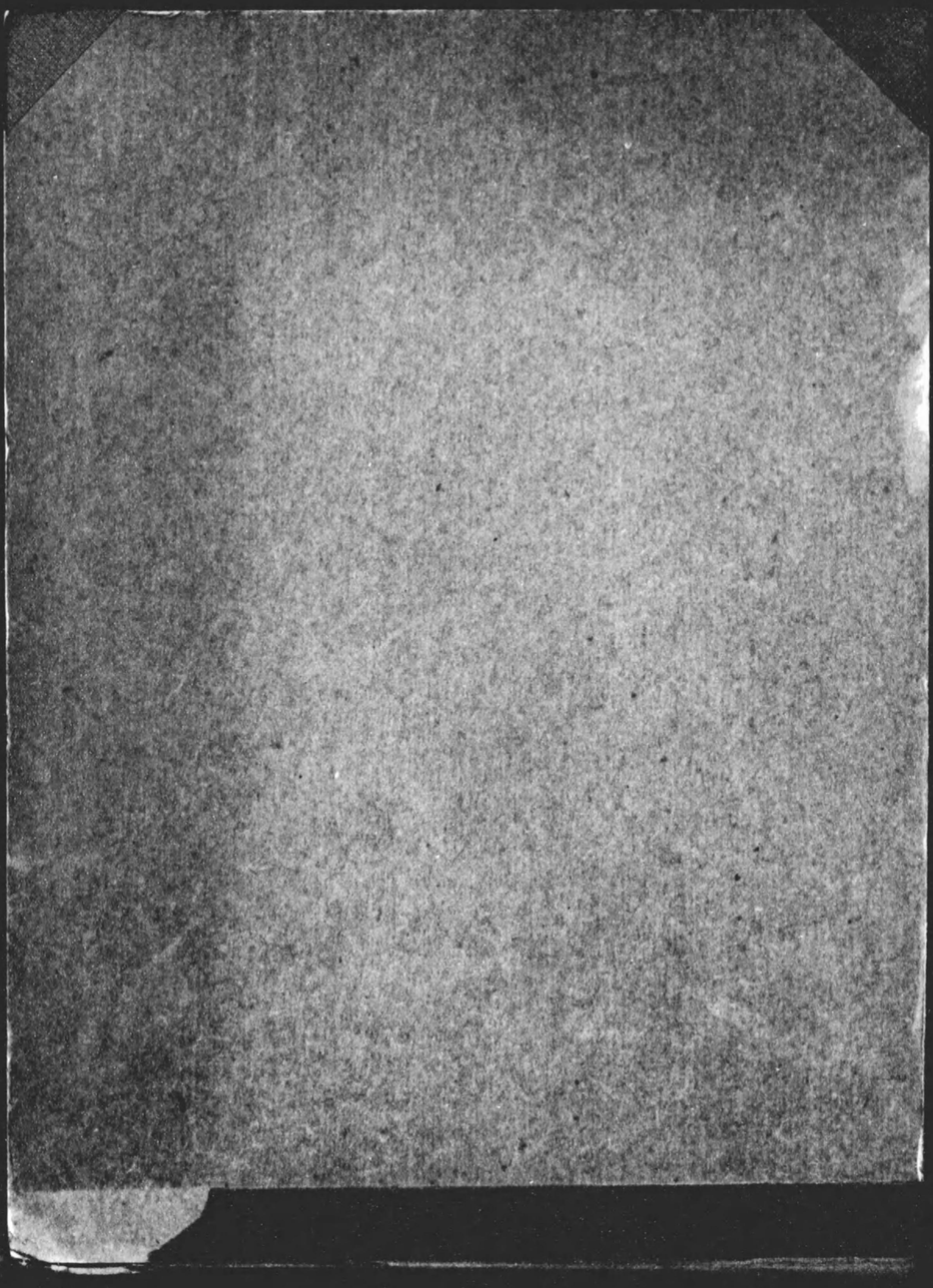
	家畜市場	魚市場	蔬菜市場
昭和六年	五一・〇%	四三・五%	四・八%



昭和八年七月十五日印刷
昭和八年七月廿一日發行

佐賀縣

印刷者　猛増豊
地番一一町屋米市賀佐

印刷所　社刷印賀佐
地番一一町屋米市賀佐
電話九二六番

423
459